

Oracle ファクトシート

Oracle Gen 2 Exadata Cloud at Customer に関する 10 の質問とその回答

規制コンプライアンス、データ主権に関する懸念、他のオンプレミスアプリケーションとの統合、超高速なレスポンスタイムの必要性、リスク軽減などは、いずれもパブリッククラウドではなくデータセンターにデータを保持するもっともな理由として挙げられます。クラウドの利点についてはビジネスリーダーはよく理解をしています。この状況を踏まえて、Oracle Gen 2 Exadata Cloud at Customer は、新たな選択肢として、お客様のデータセンターの中でパブリッククラウドのすべてのメリットの提供を可能にしました。Gen 2 Cloud at Customer により得られるメリットは計り知れません。

よく尋ねられる10の質問とその回答は下記になります。

1. Oracle Gen 2 Exadata Cloud at Customer とは何ですか？

Gen 2 Exadata Cloud at Customerは、オラクルがインストール、デプロイ、管理を行う最新世代の Oracle Exadata です。Oracle Public Cloud と同一のハードウェア、ソフトウェア、API を使って、ファイアウォールの背後で DBaaS (Database as a Service) を提供し、パブリッククラウドとシームレスに連携して動く同一のオペレーションおよび財務モデルを実現させます。

2. Exadata on-premises、Exadata Cloud at Customer、Exadata Cloud Service の違いは何ですか？

Gen 2 Exadata Cloud at Customer は、Exadata on premises と Exadata Cloud Service と同一のエンジニアド・データベースシステム上に構築されています。これにより企業は、ファイアウォールの背後にあるデータセンターでデータの安全を確保しつつ、コードの変更、あるいはサービスレベルの退行なしに、クリティカルなデータワークロードをクラウドへ移行することができます。Gen 2 Exadata Cloud at Customer では、パブリッククラウドと Cloud at Customerのデータベースにおいて一元管理インターフェースを活用することができます。

ORACLE

3. 異なるデプロイメントモデルの「アーキテクチャの等価性」にはどのようなものがありますか？顧客にとってのメリットは何ですか？

Oracle Cloud のアーキテクチャの等価性により、オンプレミスと Oracle Cloud 間で同一のユーザーエクスペリエンスおよびプログラミング API が提供されます。結果として、より迅速なアプリケーション開発、デプロイメント、データポータビリティが実現します。

Oracle Public Cloud と Oracle Cloud Service のアーキテクチャが同一であるため、アプリケーションに変更を加える必要がなく、一度開発したものをそのままどこでも実行することができます。ワークロードのパブリッククラウドへの移行は、オペレーションの中断なしに、迅速かつ容易に行うことができます。

4. Exadata On-Premises と Exadata Cloud at Customer、どちらのデプロイメントにするかはどのように選択できますか？

通常、Exadata Cloud at Customer と Exadata On-Premises に関しては、データウェアハウス/アナリティクス、ミッションクリティカルなトランザクション処理アプリケーション、データベース統合、DBaaS といった同様のユースケースが見られます。一般的に、クラウドの利点を活用しつつも、セキュリティ、規制、またはネットワークレイテンシ要件に関してデータ管理を維持したい組織は、Cloud at Customer のデプロイメントを選択しています。

医療・金融サービス・公的機関・テクノロジー・旅行・運輸・通信・天然資源・エンジニアリング・建設・小売業界のお客様に、現在ご利用いただいております。

5. Gen 2 Exadata Cloud at Customer から、組織はどのような価値の実現を期待できますか？

データ管理ソフトウェア IDC リサーチのリサーチ・バイスプレジデント、Carl Olofson 氏によると、「Exadata Cloud at Customer の利用により、一組織あたり年間平均 **193 万米ドル** の利益、ROI **365%**、6ヶ月間で損益分岐点を変更することを実現しています。」

Wikibon 社の分析によると、Gen 2 Exadata Cloud at Customer の価値は 4 年間で **3 億 3100 万米ドル** におよび、従来の DIY 型の IT データセンター基本ケースよりも **1 億 300 万米ドル** (45%) 高いことが分かりました。Microsoft Azure Stack と比較すると、Oracle Cloud at Customer は 4 年間で Azure Stack よりも利益が **9000 万米ドル** (37%) 高いことも分かりました。

6. 組織にとって、Gen 2 Exadata Cloud at Customer を選ぶ動機付けとなる検討事項は他にはどのようなものがありますか？

クラウドオートメーション、オペレーション、そして経済面です。 オラクルのエキスパートがインフラをデプロイにしたり、管理をしている間に、ほんの 30 分ほどでデータベースのデプロイを行うことができます。必要に応じて、キャパシティの拡張・縮小も可能です。また、サブスクリプションモデルでは、一時間単位のご利用ができます。さらに、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) では、オラクルのきめ細かいセキュリティコントロールのほか、分離とオペレーションポリシーのカスタマイズを管理者が行うことも可能です。

セキュリティとしては包括的なセキュリティ対策が、ハードウェア・インフラストラクチャ、ネットワーク、Exadata プラットフォーム、そして Oracle Database 全体に組み込まれています。

“

当社の分析では、Oracle Gen 2 Exadata Cloud at Customer に匹敵するサービスは、現時点では他のベンダーからは提供されていません。

Oracle Database 19c の持つ機能性、処理能力、超低レイテンシが、他の何にも劣らないことを Wikibon は確信して

”

Wikibon 社 CTO,
David Floyer 氏

セキュリティ機能はお客様のデータアクセスと Oracle Cloud Operations を分離し、Oracle Gen 2 Exadata Cloud at Customer を出入りするデータ、システム上に存在するデータ、システムへのアクセス、システムで実行されるコードの安全を確保します。さらに、お客様の自社データセンター内に本来備わっている物理的な保護も保有しています。Exadata Cloud at Customer Database Security は、透過的データ暗号化（TDE）やネットワークセキュリティなどの、エンタープライズセキュリティ機能に基づいており、システムの構成要素であるすべてのコンポーネントを保護します。

パブリッククラウドに移動できないワークロード。 Exadata Cloud at Customer は、お客様のデータセンター内でファイアウォールの背後で同一のハードウェア、ソフトウェア、API を使用し、Oracle Exadata Public Cloud のエクスペリエンスを提供し、パブリッククラウドと共にシームレスに動く同一のオペレーションおよび財務モデルを実現させます。

パブリッククラウドへの道。 Exadata On-Premises と Oracle Public Cloud Services と同一のアーキテクチャを持つ Gen 2 Exadata Cloud at Customer は、ダウンタイムの有無に関わらず、容易で低リスクなクラウドへの移行をいつでも可能にします。もしクラウドのご利用を継続なさらない場合は、サービスを停止いただくことも可能です。

専用エンタープライズデータベース・クラウドサービス。 当初から Exadata は、超高速ネットワークに接続したスケールアウト・データベースサーバーとインテリジェント・ストレージサーバーを特徴とするクラウドアーキテクチャとして設計されました。データベースワークロードのために一から構築されているため、他の一般的なコンバージドシステムのパフォーマンスはこれに追いつくことはまず不可能です。

7. 現在、Gen 2 Exadata Cloud at Customer では Gen 2 OCI データセンターにコントロールプレーンを配置しています。お客様のデータセンターに物理ラックのコントロールプレーンを配置した場合と比較したときの利点は何ですか？

Oracle Cloud Infrastructure (OCI) のコントロールプレーンを組み込むことにより、パブリッククラウドまたは Cloud at Customer 内のシステムおよびデータベースを、一元的に把握し管理することができます。コントロールプレーンは、オラクルにより、最寄りの Oracle Cloud Infrastructure (OCI) ロケーションでインストール、構成、および管理されます。

お客様のデータセンターにコントロールプレーンラックは必要ありません。その代わりに Exadata Cloud at Customer ラックで 2 つの軽量コントロールプレーンサーバーが使用されます。Gen 2 コントロールプレーンは、Cloud at Customer と Cloud Service で、同一の UI と API を使用します。これによりエンタープライズクラウドの管理が可能になり、お客様のデータセンターでのスペースや電力、冷却要件を軽減します。

8. Gen 2 Exadata Cloud at Customer のライセンスのメリットは何ですか？

既存のライセンスをお持ちの場合は、Exadata Cloud at Customer Bring Your Own License (BYOL) で、クラウドへ移行する際のコストを最小限に抑えることができます。BYOL モデルでは、Exadata Cloud at Customer に、既存の Oracle Enterprise Edition と Database Option のライセンスを使用することができます。BYOL サブスクリプションには Exadata System ソフトウェアも含まれるため、ライセンス・エンタイトルメントを持ち込む必要がありません。

既存の Oracle Database ライセンスをお持ちでない場合は、Oracle Database Enterprise Edition、Oracle Database Enterprise Manager Packs、そして Database Enterprise Edition Options のすべての機能を含むサブスクリプションモデルである Exadata Cloud at Customer Enterprise Edition Extreme Performanceをご利用いただけます。

“

Exadata は Oracle Database を実行するのに最適な「エンジニアード・システム」で、クリティカルなビジネスと統合データベース環境のためにユーザーが常に必要とする、パフォーマンス、スケーラビリティ、可用性、そしてセキュリティを提供します。ユーザー自らのデータセンターの中に（適切な場合、選択と制約の一方または両方）、同一の専用アプリケーションプラットフォームを提供することにより、オンプレミス/プライベートクラウドとパブリッククラウドのいずれかではなく、両方のご利用が実現します。

”

エンタープライズ・ストラテジー・グループ
(ESG) 社プリンシパルアナリスト&プラクティスディレクター、
Mark Peters 氏

ORACLE

9. Oracle Autonomous Database とは何ですか？データベース管理をどのように簡素化しますか？

Oracle Autonomous Database は、パッチ適用、アップグレード、チューニングを完全に自動化し、必要なセキュリティ管理、修復を自ら行い、プロセス上の人的エラーを排除し、自己稼働、自己保護、自己スケーリング、自己修復を実現します。Gen 2 Exadata Cloud at Customer は Autonomous Database に対応しています。

10. デプロイメントの準備が整ってからGen 2 Exadata Cloud at Customer の稼働までにはどのくらいの時間がかかりますか？

コントロールプレーンはすでに OCI データセンターで利用可能ですので、お客様のデータセンターにコントロールプレーンハードウェアをインストールしたり、サイズの大きいコントロールプレーンイメージファイルをダウンロードしたり、コントロールプレーンを構成したりする必要はありません。Gen 2 Exadata Cloud at Customer は、レイヤー 2 ネットワークを使用してデータベースサーバーをお客様のネットワークに接続しているため、構成はほとんどしなくて済みます。

お客様のデータセンターで Exadata Cloud at Customer ハードウェアのインストールと構成の受け入れ準備が整っている場合、データセンターにハードウェアが配置されてからインストール、構成、サービスのアクティベーションまでに約 **7 ~ 10** 営業日かかります。以前の世代ではこの作業に約 8 週間かかっていました。

結論

Gen 2 Exadata Cloud at Customer は、オラクルによって完全に管理されたオンプレミスデプロイメントのセキュリティと管理に加えて、クラウドのシンプルさを実現し、サブスクリプションモデルもサポートいたします。クラウドに完全に移行する選択肢がないとしても、Oracle Cloud at Customer がお客様のもとにクラウドをお届けします。

CONNECT WITH US

 oracle.com/jp/corporate/features  facebook.com/OracleJP/  twitter.com/Oracle_Japan

統合クラウドアプリケーション&プラットフォームサービス

Copyright © 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. Oracle および Java は、Oracle とその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。190xxxx

 | オラクルは、環境保護を助けるプラクティスや製品の開発にコミットしています。

ORACLE